



ほんあい子ども食堂 MOGU で行われた  
ビュッフェの様子

少年会本愛団では、立教187年子どもおちばがえりの受け入れの準備を進めている。  
今年初めての試みとして、詰所での夕食をビュッフェ形式で提供する。子供たちの大好きなメニューが自由におかわりできるよう

だんだんと夏が近づいてきた。今年もおちばでは7月27日から8月4日までの9日間にわたり、子どもおちばがえりが開催される。  
期間中、親里では、帰ってきた子供たちに楽しんでもらえるよう様々な行事が催される。少年会ほんあい団でも、帰参者を喜ばせようと、詰所での受け入れ準備を進めている。

# 子どもおちばがえり、 受け入れ準備着々と 詰所ではビュッフェ形式の夕食も



発行  
**天理教本愛大教会**  
〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

年間活動目標  
今日を陽気に。  
つながる、  
つなげる。

6月23日に執り行われた本愛大教会創立110周年記念祭の詳細は、次号(8月号)に掲載いたします。  
広報部

また詰所で過ごす夜の時間を少しでも楽しんでもらえるよう、準備も進められている。昨年同様、詰所2階講堂にゲームコーナーが設けられ、帰参した子供たちは自由に遊ぶことができ。  
詰所でのひのきしんをお手伝いいただく「少年会サポーター」も随時募集中。

各教会が団参をするにあたり、昨年よりインターネットによる事前申し込みが必要となっている。各教会に配布されたIDを使い申し込み。カレー食は1日の喫食数に上限があるため、早目の申し込みを。  
詳細は要項か少年会本部のホームページを参照いただきたい。

左記の専用QRコードからサポーター登録をするとスマートフォンから参加の申し込みができる。とりわけビュッフェの実施には多くの手が必要となるため、積極的な参加が望まれる。  
LINE  
本愛団  
サポーター  
登録用  
QRコード

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
鼓笛隊練習日	7日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
子ども食堂MOGU	17日	午後5時
婦人会例会	20日	午前10時
鼓笛隊練習日	21日	午前10時
本部月次祭	26日	午前9時
女子青年例会	27日	午前10時
子どもおちばがえり	27日	8月4日
習子のOKEIKO		華水教室
5週目を除く毎週木曜日		

7月のこよみ

# 現代に生かす

## 「用木の道」

文・安藤吉人



教祖ご在世中の江戸末期から明治初めにかけては、「文明開化」とも言われ、近代化に伴って西洋のさまざまな技術が伝来し、日本各地に急速に普及していった時代でした。

電灯や鉄道など、江戸時代の人々には想像すらできなかったような技術が普及する一方、教祖のお言葉の中には、あらかじめそれらを予言するようなものが見られます。

後世の人々が、後に振り返って「予言」だと感じたお言葉の数々をたどってみたいと思います。

### 下向きにとぼる灯とは

『山田伊八郎文書』の中



に、教祖のお側で仕えた山中こいそ(後の山田いゑ)の回想として、教祖の明治5年頃のお言葉があります。

この灯火で暗いし、灯は上向いて点いているが、もうじき灯が下向いてとぼる日が来るのや」とおっしゃったそうです。

日本で電気の街灯が初めて導入されたのは明治15年のことで、このお言葉はその10年も前のものです。

また、慶応3年頃に入信した北田嘉一郎氏に対しては、「世界は今に蜘蛛の巣を

張ったようになるで」とおっしゃったとあり、嘉一郎の息子・竹松氏は「これが今日の電信・電話・電気のことだったのでしよう」と書いています。

このほかにも、「じつとしていて遠くのものと話ができる」「座ったままで遠くまで行けるようになるのや」などと、電話や鉄道を「予言」したと思われる教祖のお言葉は、数々残されています。

しかしこうしたお言葉は、単に新たな技術の登場を予言するためだけに語られていたわけではありません。

たとえば、東海大教会の初代会長・加見兵四郎先生の話に次のようなものがあります。

幼少期に両親に捨てられるなど大変な苦勞をした加見先生は、「人間創造の目的は陽気ぐらしである」という教理に対し「それならば、なぜ自分のように不遇な人

生を歩む人がいるのか」と納得できなかったそうです。それに対し、教祖は「兵四郎さん、あんた、苦勞難したればこそ、神さんがわかったのやで。(中略)これから、どれだけ働かすやも知れん。それが楽しみやで」とお言葉をかけられています(高野友治『草の中の聖たち』より)。

因縁が悪いからだ、といったような過去に対する言葉ではなく、未来の楽しみについての言葉で教諭されているところに、教祖の温かい親心を感じます。

予言はそれだけで不思議なことですが、教祖はそれによって威厳を示したりするのではなく、陽気ぐらしのための道筋をお示しになつていなのです。

その教祖がお待ち望み下されている教えの広がりも一日も早く実現できるように力を尽くしていきたいと思つています。

## 公式サイトと YouTube をご活用ください!

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想

### 言わん言えんの理を探る



創立百十周年 記念祭が盛大に 執行されました。あの日に大教会へ心を寄せ、真柱様のメッセー ジに聞き入り、真剣におつとめを唱和するよう ぼくの姿をご覧 になつて、先人 もさぞかしお喜 びくだされたことでしょう。これを吉祥として、教祖年 祭へ向かう歩みに弾みをつ けたいと思います。

さて、私たちが生きる現 代の世の中は、混迷からな かなか抜け出せない状態が 続いています。世界各地で 続く紛争は終息の目途が立 たず、国内でも政治不信や

経済的な不安は払拭される ことがありません。中でも 小さな子供や若者が犠牲に なる事件報道に心を痛める 人は多いでしょう。親が子 を虐待して傷を負わせ、拳 句の果てに死に至らしめて しまう。反対に子供が親に 暴行を加えるなどという痛 ましい事件も頻発していま す。こうした憂うべき社会 の現状を、専門家は様々な 立場から検証していますが、 お道の信仰者はどのような 態度でこれを眺め、何を実 践すればよいのでしょうか。

おさしづに、

：しようと思つて成るや ない。しようまいと思つ ても成つて来るのが、い んねんの理という。

(明治27年5月31日)

とあります。ここから思案 すると、子供を虐待する親 も、また親に暴行を加える 子供も、いずれも魂の「い んねん」通りの姿であると 悟ることができるでしょう。

しかしここで大切な点は、 いんねんを定まった宿命や 運命の如くに考えてはなら ないということです。

教祖が「いんねんという は心の道」とお教えくださ れたように、自分が前生か ら今日まで使い続けてきた 心使いの道が、姿や形と なつて現れてきているのが いんねんですから、これか らの心の使い方によつてい んねんは変わり、今後の心 の道次第で現れる姿や形を 変えていくことができる。

これがこの道の教えのあり

がたさであります。

#### ■ひながた実践の努力を

虐待や暴行をしてはいけ ないことは誰でも知ってい ます。しかし、一時の感情 に流されて理性を失い、あ とで後悔しているのが加 害者となつた親や子供で す。いずれも悪者のように 報じられる場合が多いです が、お道の信仰から考えれ ば、魂の徳を失い、悪いん ねんを切り変える道に出逢 わずに今日まで来てしまつ た、可哀想な人々と考える べきではないでしょうか。

こうした事件がくり返さ れないように私たち信仰者 は現代において何をするべ きか。ここで重要なキー ワードとして浮かんでくる のが感謝と慎みと助け合い の心です。自分で生きてい るのではなく、親神様に生 かされていることへの感謝。 たとえ我が子といえども自 分の所有物ではなく、親神

様からの借り物であるとい う謙虚さと感謝の気持ちが 何より大切です。

また慎みとは、金銭の浪 費や感情を抑えるという消 極的な意味だけでなく、積 極的に胸のほこりを払つて、 心の改良を進めることも意 味します。そして、助け合 いを实践する根本精神は、 他人の気持ちを想像し思い 遣るところにあります。

悲しい事件が起きないよ うにするための特効薬はあ りません。感謝と慎みと助 け合いを伝える努力は一見 遠回りのように思われます が、まず私たちがこれを 日々の暮らして実行し、周 囲の若者、特に小さな子供 たちにその姿を映していく 行いが世を立て替える確か な道筋で、これこそが教祖 ひながたの道であります。

些細な事をおろそかにせ ず、教祖年祭へ向かつて、 ひながたの道を陽気に勇ん で歩んでいきましよう。

【第 115 回】

## 混迷する現代社会に映そう 感謝と慎みと助け合いの心

5月のおさづけの理拝戴者  
徐文郎(本愛慶心)

5月の初席者  
渡辺洪波(本愛岳)

事情おはこび  
(令和6年5月26日付)

本穂分教会  
◎臨時祭典願

創立100周年記念祭  
令和6年9月22日

**YouTube 本愛大教会公式チャンネル**

少年会  
縦の伝道講習会

**宇野明二郎先生**

少年会本部委員



※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。  
本愛誌の読者限定で公開している動画ですのでチャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

# 大 教 会 日 誌

令和6年5月25日～令和6年6月24日

- 5月**
- 指図方・安藤正二郎 賛者・津田豊郎、坂倉敏男
  - 26日 本部月次祭 ◇祭典講話一大教会長
  - 31日 常任役員会議◇役員会議
  - 14日 布教実修所
- 6月**
- 16日 むつみ会例会
  - 1日 入社祭
  - 17日 こども食堂MOGU
  - 祭 主・大教会長 扨者・大橋進、加藤成幸
  - 20日 婦人会例会
  - 指図方・都築隆道 賛者・長良英男、出口順一郎
  - 22日 こはる会例会
  - ◇少年会縦の伝道講習会
  - 23日 本愛大教会 創立110周年記念祭
  - 講師一少年会本部委員・宇野明二郎先生 中山大亮様、中山はるえ様ご臨席(随行・中田善亮先生、西浦忠一先生)
  - ◇大教会長挨拶
  - 2日 よふき会例会
  - 祭 主・大教会長 扨者・筑紫英一、都築隆道
  - おつとめ、十二下りてをどり、連絡会
  - 指図方・安藤正二郎 賛者・津田豊郎、坂倉敏男
  - 12日 常任役員会議 ◇真柱様メッセージ・おつとめ・抽選会
  - 13日 月次祭
  - 青年会例会
  - 祭 主・大教会長 扨者・筑紫英一、都築隆道
  - 女子青年例会